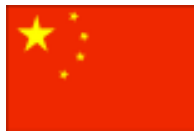


COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

21 April 2010

IN THE HEADLINES



中国

第1四半期の実質GDPは、純輸出がマイナス寄与であった中、国内需要に牽引されて、前年比11.9%増加した。投資と消費はともに強力であった。3月に不動産価格が12%も上昇し経済が過熱しているという恐れがある。しかし、CPIによって測定されたインフレ率は相対的に低いままである—2月の前年比2.7%から僅かに減少し、3月は前年比2.4%だった—第1四半期の成長は、2009年第1四半期の非常に低いペースと比べて大きく上がった—信用供与の成長は速度を緩め、不動産市場ではいくつかの措置が取られた。継続的成長についての懸念があるため、政策は十分に注意深さを残しながらも、引き締めの方に傾くだろう。



ベネズエラ

長期間の石油供給契約の見返りとして200億米ドルの借款(10年返済)が中国との間で(中国の開発銀行を通して)合意された。中国の国策石油会社は、また、オリノコ油田地帯の一区画の重油を開発する合弁に参加する。これは、中国にとっては、長期的なコモディティ供給先を確保するための更なる一歩であり、ベネズエラにとっては、政府財政を支え、かつ石油業界には技術確保となる(ともに現在不足している)。しかし、政府は経済をリセッションから脱出させようとしているので、支出を増加させるため財政赤字の圧力は続くであろう。



トルコ

与党であるAKP(政治的イスラムにルーツを持つ政党)と世俗的エスタブリッシュメント(陸軍と司法を含む)との間の緊張が再び高まった。過去3カ月の間に軍の多数の高官が拘留され、2003年のクーデターの企てにおける彼らの役割について尋問が行われた。それだけでなく、今週議会はAKPによって提案された約30の憲法修正案の議論を開始し、その多くは軍と司法の力を削る方向のものである。政治情勢は引き続き不安定なままとなり、それが潜在的に政策の舵取りを邪魔し、定期的に金融市場の信頼感にも影響するだろう。



インド

昨日インド準備銀行(RBI)は公定歩合を0.25%引き上げ、現金準備率も同水準の引き上げを行った。2ヶ月連続の金利の引き上げであるが、強固な経済などを理由に、これが今年上半期の最後の金融引き締めとはなりそうにない—RBIはその2010/11会計年度のGDP成長予測を「上向きのバイアス」付きで8%に引き上げた。良好な食物収穫により食品価格の上昇は適度な範囲であるが、卸売物価(インフレターゲットとして使われている)は3月に前年比9.9%上昇しておりインフレ圧力は強い。現在の成長・インフレ環境を踏まえて、今年は更に1%の引締めが行われるであろう。

ALSO IMPORTANT...



イスラエル

3月の消費者物価高騰が前年同月比3.2%上昇—これは5ヶ月ぶりの低さではあるが、まだ1-3%の公式ターゲットよりは高い—であり、インフレ圧力は沈静化してきた。エネルギー価格を除くコア・インフレについては前年比2.6%の増加にとどまり、これは直近2年以上の期間で最も低い水準である。更に、強いシュケルと税制及び規制措置により今年は物価上昇が制限されるであろう。更なる公定歩合の引上げは予想されるものの、中央銀行は積極的な金融引締め策には出ないだろう(2009年8月以降1%上がっているがそれでも歴史的な低さである)。この背景により、2010年のGDPは3-3.5%の成長が見込まれる。



キプロス

日曜日に、大統領として現在首相であるデルビツシュ・エロル氏がトルコ系キプロス人により選ばれた。エロル氏の得票率は50%を僅かに超えるもので、現職の再統一派であるメフメット・アリ・タラト氏(得票率43%)を破った。エロル氏—「北キプロストルコ共和国」(トルコのみが承認)の独立の方向の意向を示している—の勝利は、投票者たちの、北部の分離をやめさせるというタラト氏の公約に対する、信頼喪失を反映している。一年前、当時与党であったタラトのCTP党は、既に、議会選挙においてエロルのUBP党に敗れていた。短期的な解決はなく、再統一の交渉はさらに困難となりそうである。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



エジプト

ホスニ・ムバラク大統領の健康状態に起因する後継問題にも拘らず、軍による強力な支持が続いているため、システミックな政治安定は相対的に保証されている。2004年以来的の経済改革は幾つかの構造的な弱さに対応し—海外直接投資を促し—、2006-08年には年間の成長は平均7%以上となった。2009年にはGDPは3.5%程度の成長だったが、これはグローバルレベルのリセッションの影響を受けたものであり、経済は幅広い分野(石油、ガス、観光、スエズ運河からの収入、そして海外労働者からの送金)での基盤があり、世界貿易とグローバルな成長の回復とともに良化するであろう。2010年のGDPが4.5-5%成長が見込まれる。



ギニア・ビサウ

2009年3月当時の大統領であったビエイラ氏暗殺とその後数ヶ月間の武力による政治的混乱に反映されるようにシステミックな政治的リスクは非常に高い。2009年7月の大統領選はマラム・バカイ・サニャ氏が比較的平和に選ばれたが、同氏は与党であるPAIGC党内部における基盤と強力な軍部との関係を固める必要がある。経済面でのリスクも非常に高く、長年にわたる財政赤字・経常赤字の蓄積があり、外部負債はGDPの250%前後と見積もられている。しかし、CFAフラン圏に所属していることで為替リスクは弱められている。

IN BRIEF

キルギスタン
韓国

失脚したバキエフ大統領は国を脱出し、現在ベラルーシにいとされている。ムデーーズによりA2からA1(アウトルックStable)に格上げされた。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.